

加工交易アイランドの構築を目指して

OKINAWA型産業振興プロジェクト中長期ビジョン～産業クラスター成長戦略～

本特集では、経済産業部が平成18年3月にとりまとめた『OKINAWA型産業振興プロジェクト中長期ビジョン』（2006年度から5年間の成長戦略）の内容を5回（第1回：全体計画、第2回：健康産業成長戦略、第3回：情報産業成長戦略、第4回：加工交易型産業成長戦略、第5回：環境関連産業成長戦略）に分けて連載しており、今回は第4回の加工交易型産業分野の成長戦略の概要及び最近の活動について紹介します。

1. 加工交易型産業分野における成長戦略

OKINAWA型産業振興プロジェクトの二期目（2002年度～2005年度）における加工交易型産業分野では、地域産業を支える地場製造業の活動を支援してきました。

総合的な競争力強化に向けて、県外への出荷が好調な泡盛や健康食品などの機械装置が地元企業で製作可能な活動を進めるために、金属製品製造業、機械器具製造業などを中心とした地元製造業で構成する「ものづくり研究会」や、沖縄の地理的環境（熱、紫外線、塩害等）が建築物に及ぼす影響を解明し、今後の製造業の新事業創出を図るべく検討を進める「耐候性材料等評価研究会」などを立ち上げました。

ものづくり研究会ではこれまでに、鶏卵自動販売システム、回転円盤型噴霧乾燥機や泡盛蒸留装置の自動制御システムの研究開発を行ってきました。今後は、特別自由貿易地域などに立地した企業や交易を行う企業なども一体となった取組を推進していきます。最近では、地場資源を活かした

産業の発掘や新規事業の創出に向けた取組が課題となっており、特に泡盛は代表的な交易型の地場産業となりつつありますが、工業規模等で零細なところが多く、共同工場や共同輸配送等物流の効率化も課題となっています。また、地場産業を支えるとともに沖縄経済を拡大させるためには企業誘致について積極的に取り組むことも必要で、特別自由貿易地域内での賃貸工場の整備により進出企業も伸びてきているものの、引き続き東南アジアとの近接性等の沖縄の特性を生かし切れる交易型産業の誘致等に取り組むことが求められています。

2. 加工交易型産業における最近の取組

「ものづくり研究会」では、社団法人沖縄県工業会連合会食品関連産業部会等とのマッチングを6月下旬に行いました。アルミ用金型、各種機械部品の設計、製作を行っている株式会社ジョーワ、精密機械部品切削加工器具、各種プレス金型を設計・製作する有限会社奥原鉄工、ステンレス板金加工・特殊タンク、特殊プリント

加工交易型産業分野 特定自由貿易地域を最大限活用した国際交易アイランドの実現

	目標 2,600億円	現状と課題 1,500億円	取り組むべき事業
ものづくり系産業	競争力強化 県内企業間、誘致企業と県内企業間の相互補完活動強化	ものづくり企業の不足 経営基盤が脆弱 新商品開発能力の不足 本土等への販売力不足 人材の不足	企業誘致の促進 企業間連携の促進、金融面での支援 研究グループの形成、研究開発の支援 本土、海外への販路拡大支援 本土からの人材誘致、県内大卒者の県内での就職支援
交易型産業	特別自由貿易地域の有効利用 優良企業の誘致	大量に残る分譲地域 高い分譲用地 賃貸工場スペースの不足 高い電力、工業用水 浚渫未了で利用不能な中城港 港湾施設内での物資運搬障壁 不足するサポーティング産業	特別地域を有効利用できる企業形態を検討し、効率的な企業誘致活動を実施（アジア、台湾、中国との関係強化） 定期借地権方式等による分譲価格変更を検討 賃貸エリアと分譲エリアの線引きの見直し 電力料金、工業用水料金の比較検討 速やかな浚渫の実施 中城港の利用利便性の向上 県内企業との連携、情報交換の拡大支援

機械、レーザー切断加工の株式会社日進、各種食品・飲料缶・セメント・二次製品・製糖関連自動制御装置に定評のある沖縄オートメーション株式会社の企業4社から製品開発取組などのプレゼンテーションを行いました。マッチング終了の講評において、沖縄県内で技術力のある企業が身近に存在することに「目から鱗が落ちる」と思いと高い評価を得ました。



デザインの高度化に向けた取組として、2006年グッドデザイン賞（財団法人日本産業デザイン振興会主催）受賞を目指す検討会（CoCoプロジェクト）を集中的に開催しました。複数の応募企業から株式会社佐喜眞義肢を選定、同社の医療用・スポーツ用関節装具「CBブレイス」を商品デザイン部門で支援、7月上旬の第1次の書面審査は通過しましたが、8月下旬に開催された2次の現物審査において不通過という厳しい結果を受けました。同時に行われたホームペー

ジ応援メッセージの書き込みでは全作品中第2位という評価もあつたことから今後の活動への励みとなりました。



また、沖縄には、ステンレスやガラス、木材等の素材を日常生活用品や家具、レジャー用品等に加工する技術を有する企業が存在します。一方で、豊かな芸術的感性やデザイン感性を有するアーティストやデザイナーも比較的多く存在します。しかし、県内のモノ

づくり企業の現場においては、職人が従前のデザインで「モノづくり」をしている場合が多く、新しい時代感性に合うデザイン性を取り入れた「モノづくり」は必ずしもできていないのが実情です。このような時代や社会の要請に適正に因應するためにも「デザイナー」が活躍しやすい環境を整え、各分野のデザイナーが一堂に会する場と機会として、沖縄デザイナーズネットワークを設置し「デザイナーが活躍しやすい環境を整えま

す。

特許技術の内容・効果を広く一般に知らしめる目的で、特許庁等が10月初旬に主催した「パテントソリューションフェア2006」へ、株式会社佐喜眞義肢の「CBブレイス」、STILP株式会社の「完全防水型金属屋根葺材」の特許技術等の出展支援を行い、ビジネスチャンスの拡大に努めました。

「上等さー、うれしーさー、言われてっコリ県産品」のキャッチフレーズで10月下旬に開催された「第30回沖縄県産業まつり」に、ギネスブックに世界一と記録された沖縄美ら海水族館のアクリルパネルを製造した日プラ株式会社、海辺で自由に遊べるビーチ対応の車いす「チェアボート」を製造して

いる合資会社大名鉄工の2社を出展支援し、広く県民にモノづくり企業をアピールしました。



沖縄においては、モノ作り系産業（機械装置製造等）をサポート

する基盤技術（めっき、プレス加工、プレス加工、金型等）を有する企業の立地がごく僅かで、県内製造業の需要に対応できず、市場獲得の機会を逸している現状にあります。これは、衣類製造、健康食品等の産業（製造業）にとって成長を妨げる要因となっており、一刻も早い改善が求められています。成長が見込まれる産業に焦点をあて、どのような設備、技術人材等が不足しているかを洗い出し、戦略的に集積を図るべきモノ作り系産業及びサポートティング産業の絞り込みを行い、その技術力向上や人材育成に係る方策等の検討を目的とした「モノ作り系

産業の競争力支援等に向けた産業基盤強化のための調査を実施、今年3月に報告書を作成します。

3. 戦略推進に向けた体制の整備（まとめ）

OKINAWA型産業振興プロジェクトを推進し、中長期ビジョンで掲げた目標を達成するためには、企業サイドにおける自立的な取組強化を図っていくことが重要です。

このため、OKINAWA型産業振興プロジェクト推進ネットワーク（民間推進組織事務局（財）南西地域産業活性化センター）において民間側が主体的に活動する戦略推進を目的とした「加工交易産業部会幹事会」を設置することになりました。そのほか、将来必要とされる技術課題の事前解決に取り組む「産業需要技術研究会（仮称）」の設置に向けて検討を進める予定です。

（OKINAWA型産業振興プロジェクト）沖縄総合事務局経済産業部のHP: <http://ogb.go.jp/move/>